

サマータイム制度に関するアンケート 結果報告書

目 次

■はじめに	1
【1】調査の概要と回答者の属性	2
【2】サマータイム制度について	3
【3】自由記述	27

2005年 5 月

財団法人 経済広報センター

はじめに

経済広報センターは、広く社会の声を聴くため、全国の様々な職種、世代で構成される「社会広聴会員(4,796人)」を組織しております。毎年4回、経済・社会問題など折々のテーマについて社会広聴会員を対象にアンケート調査を行い、その結果を公表しております。

今回は「サマータイム制度」をテーマに、「認識度」「導入の賛否」「賛否の理由」「地球温暖化対策の効果」などについて調査しました。

調査からは、認識度は98%（名前だけでも含む）と高く、導入については「省エネ」「地球温暖化対策」「余暇の充実」に有効との期待から賛成（条件付きも含む）が64%と半数を超え、昨年内閣府が実施したサマータイムの「国政モニター調査」の賛成（63%）とほぼ同様の結果となりました。また、反対は「労働時間の増加の恐れ」の懸念と「現状に問題なく導入の必要性を感じない」との理由が高いことなどが明らかになりました。

今回のアンケートが、サマータイム制度の理解を深めていただく一助になれば幸甚です。

財団法人経済広報センター

【 1 】 調査の概要と回答者の属性

■ 調査の概要

- (1) 調査名称 : サマータイム制度に関するアンケート
 (2) 調査対象 : 財団法人経済広報センターに登録している社会広聴会員 4,796人
 (3) 調査方法 : 郵送またはインターネットによる回答選択方式および自由記述方式
 (4) 調査期間 : 2005年3月30日～4月12日
 (5) 有効回答 : 3,919人 (81.7%)

回答者の属性

* 小数点第2位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

単位: 上段/人 下段/%

■ 性別

合計	男性	女性	無回答
3,919	1,575	2,342	2
100%	40.2%	59.8%	0.1%

■ 年齢別

29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無回答
158	621	1,155	827	1,157	1
4.0%	15.8%	29.5%	21.1%	29.5%	0.0%

■ 職業

会社員	団体職員	公務員	会社員・団体職員・ 公務員 小計
1,130	102	118	1,350
28.8%	2.6%	3.0%	34.4%

会社役員	団体役員	会社役員・団体役員 小計
133	49	182
3.4%	1.3%	4.6%

自営業	自由業	自営業・ 自由業 小計
152	126	278
3.9%	3.2%	7.1%

パートタイム・ アルバイト
558
14.2%

専業主婦
837
21.4%

無職	学生	その他	無職・学 生・その他 小計
487	36	187	710
12.4%	0.9%	4.8%	18.1%

無回答
4
0.1%

【2】 「サマータイム制度について」

(1) あなたは、サマータイム制度に関してどの程度ご存知ですか。

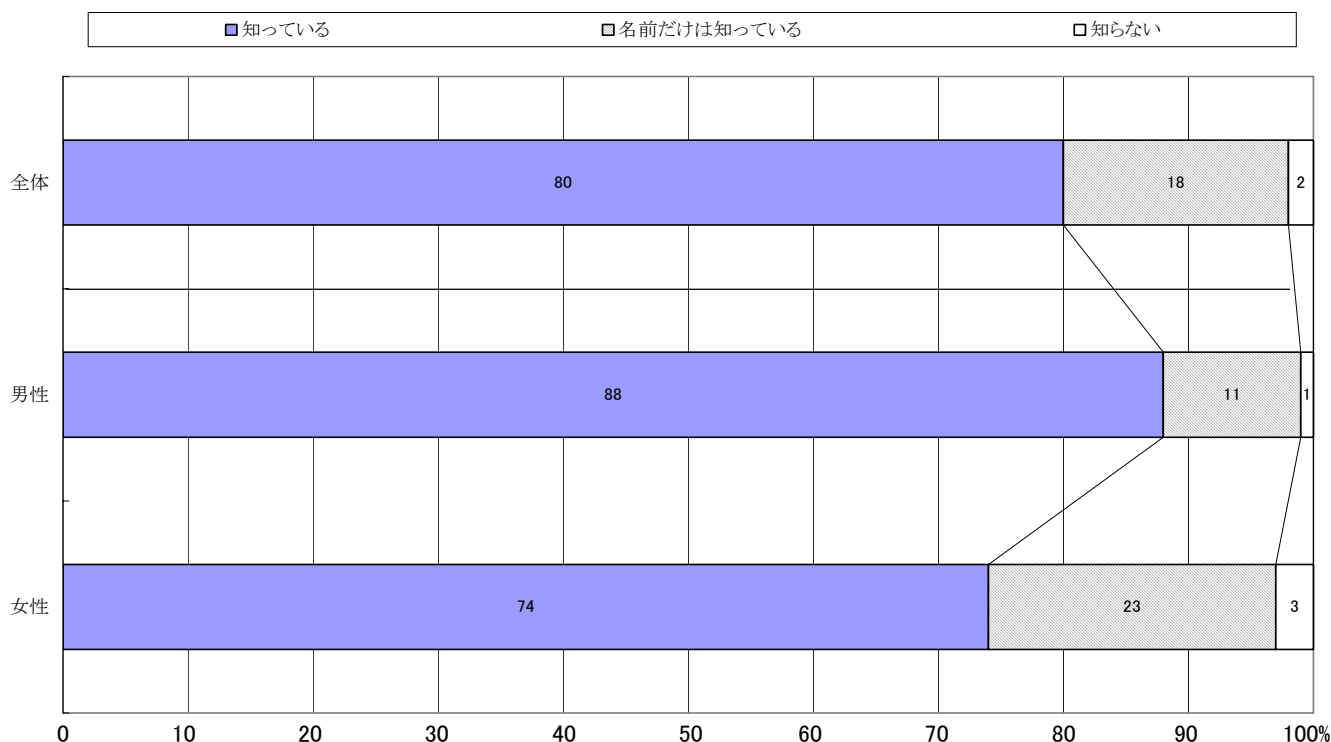
【全員に質問(有効回答数:3,914人)】

＜男女別＞

— 「知っている」80%、「名前だけ」18%、「知らない」2% —

- ◆ 全体では、「知っている」の回答割合が80%、「名前だけは知っている」が18%であった。
- ◆ 男女別では、「知っている」と回答した割合は男性の方が高く、88%。女性は、74%であった。

男女別



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある。

【2】 「サマータイム制度について」

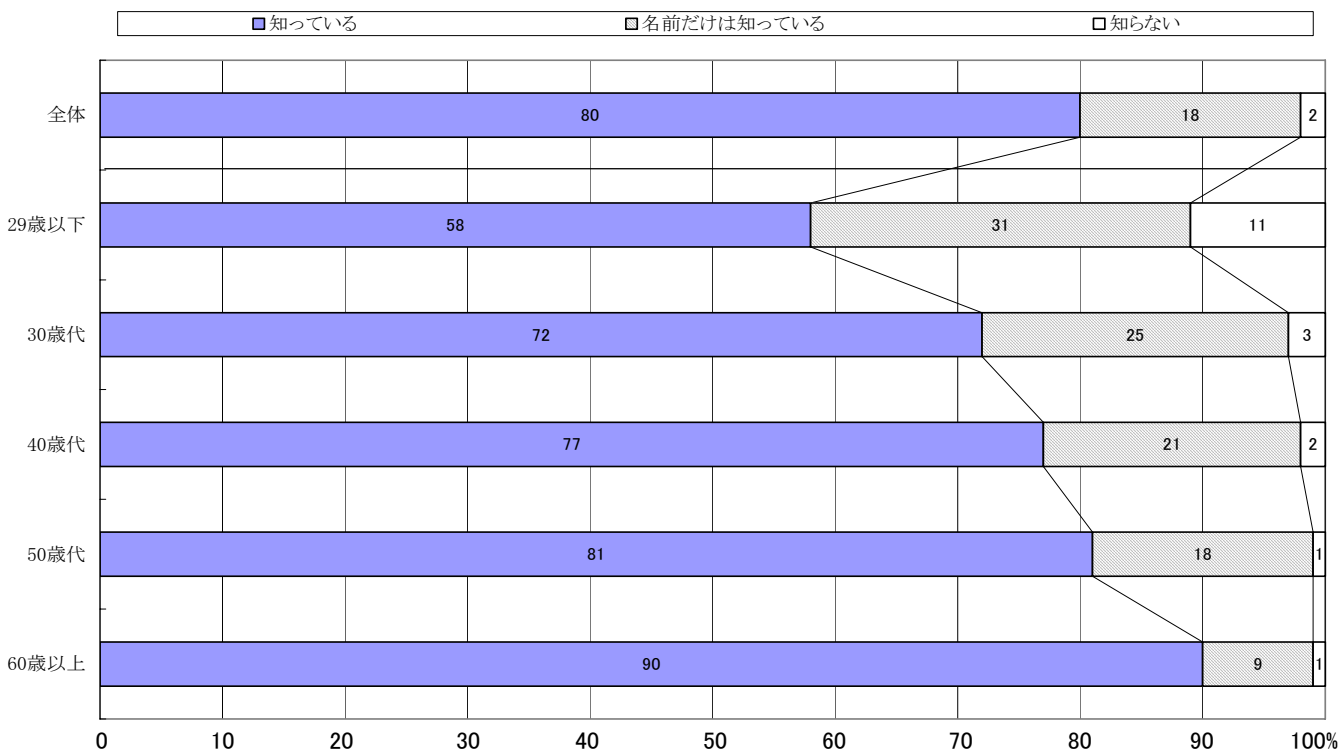
(1) あなたは、サマータイム制度に関してどの程度ご存知ですか。

【全員に質問(有効回答数:3,914人)】

<年代別>

- ◆ 年代別では、年代が高くなるほど、「知っている」の回答割合が高い。
- ◆ 29歳以下は、「知っている」の回答割合が58%と他の年代より低い。
- ◆ 60歳以上は、「知っている」の回答割合が90%と他の年代より高い。

年代別



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある。

【2】 「サマータイム制度について」

(2) あなたは、サマータイム制度についてどの程度関心がありますか。

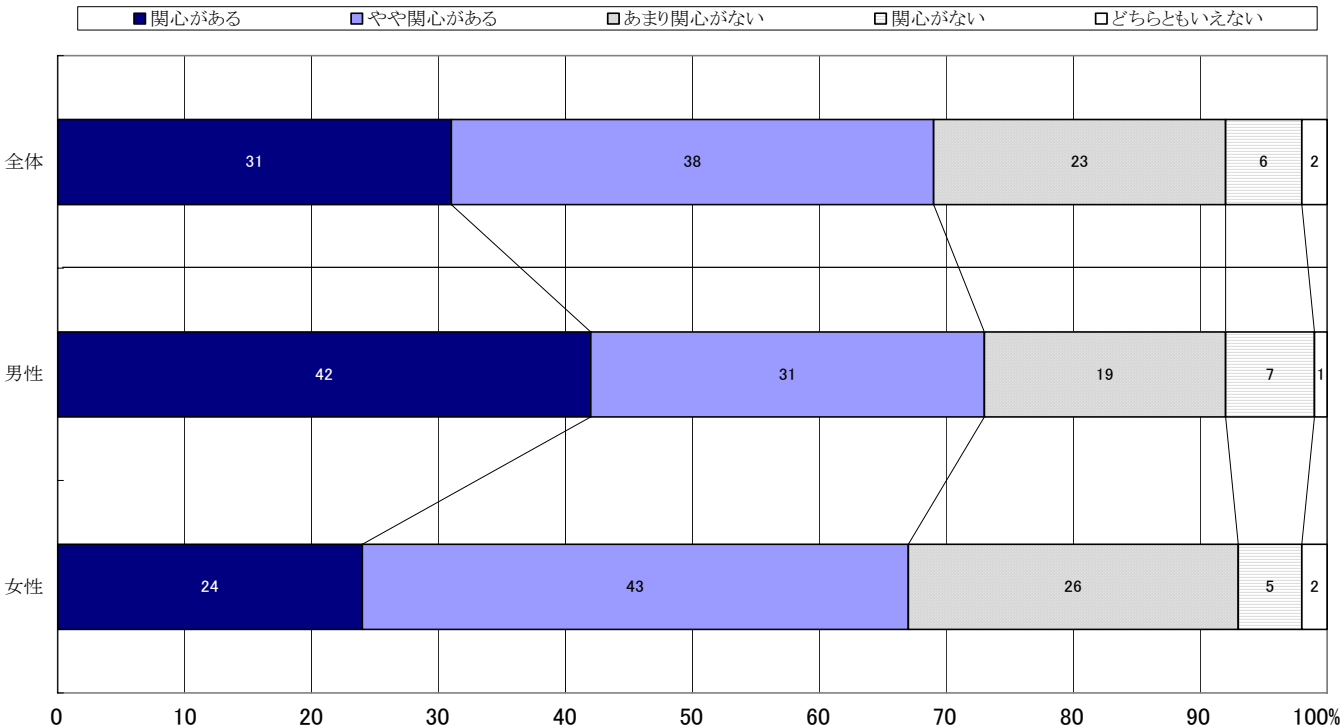
【全員に質問(有効回答数:3,915人)】

＜男女別＞

— 7割が「関心がある（関心がある/やや関心がある）」 —

- ◆ 全体では、「関心がある」の回答割合は31%、「やや関心がある」は38%であった。
- ◆ 「関心がある」の回答割合は、男性が42%。女性は24%で男性より18ポイント低い。

男女別



*小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある。

【2】 「サマータイム制度について」

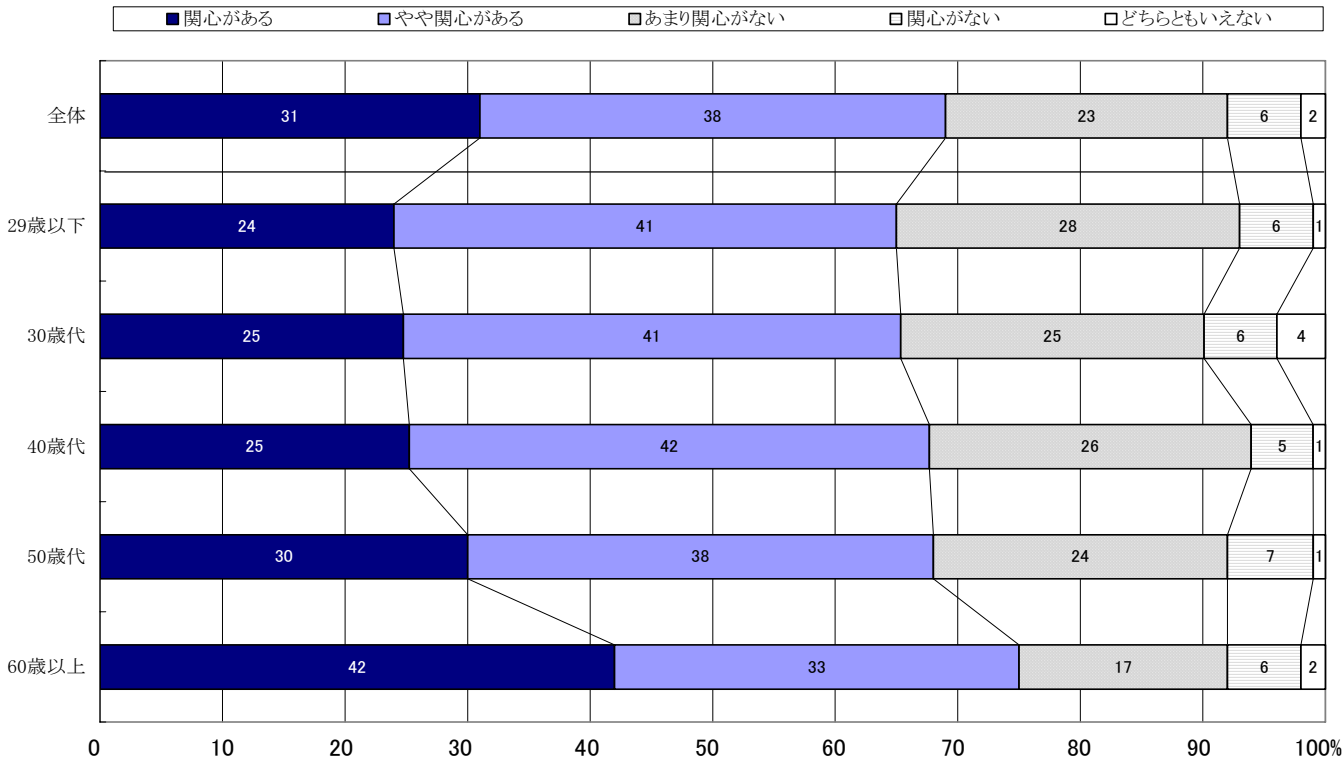
(2) あなたは、サマータイム制度についてどの程度関心がありますか。

【全員に質問(有効回答数:3,915人)】

<年代別>

◆ 年代別では、60歳以上が「関心がある」「やや関心がある」と回答した割合が他の年代より高く、75%であった。

年代別



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある。

【2】 「サマータイム制度について」

(3) あなたは、わが国におけるサマータイム制度の導入についてどのようにお考えですか。

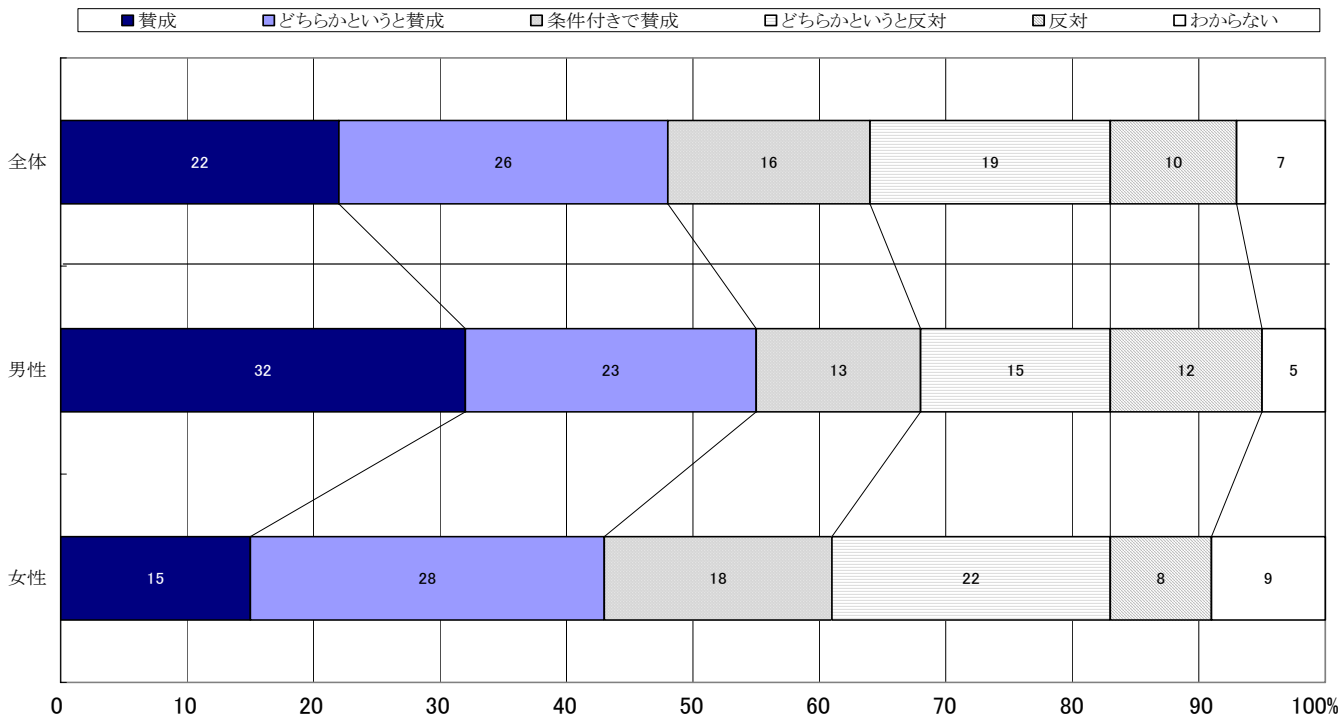
【全員に質問(有効回答数:3,914人)】

<男女別>

— 「賛成(賛成/どちらかというと/条件付きで)」は64% —

- ◆ 全体では、「賛成(賛成/どちらかというと/条件付きで)」と回答した割合は64%であった。
- ◆ 男女別では、「賛成(賛成/どちらかというと/条件付きで)」の回答割合は男性68%、女性61%であった。
- ◆ 特に、積極的な意向の「賛成」については男性32%に対し、女性は15%で男性の半分以下であった。

男女別



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある。

【2】 「サマータイム制度について」

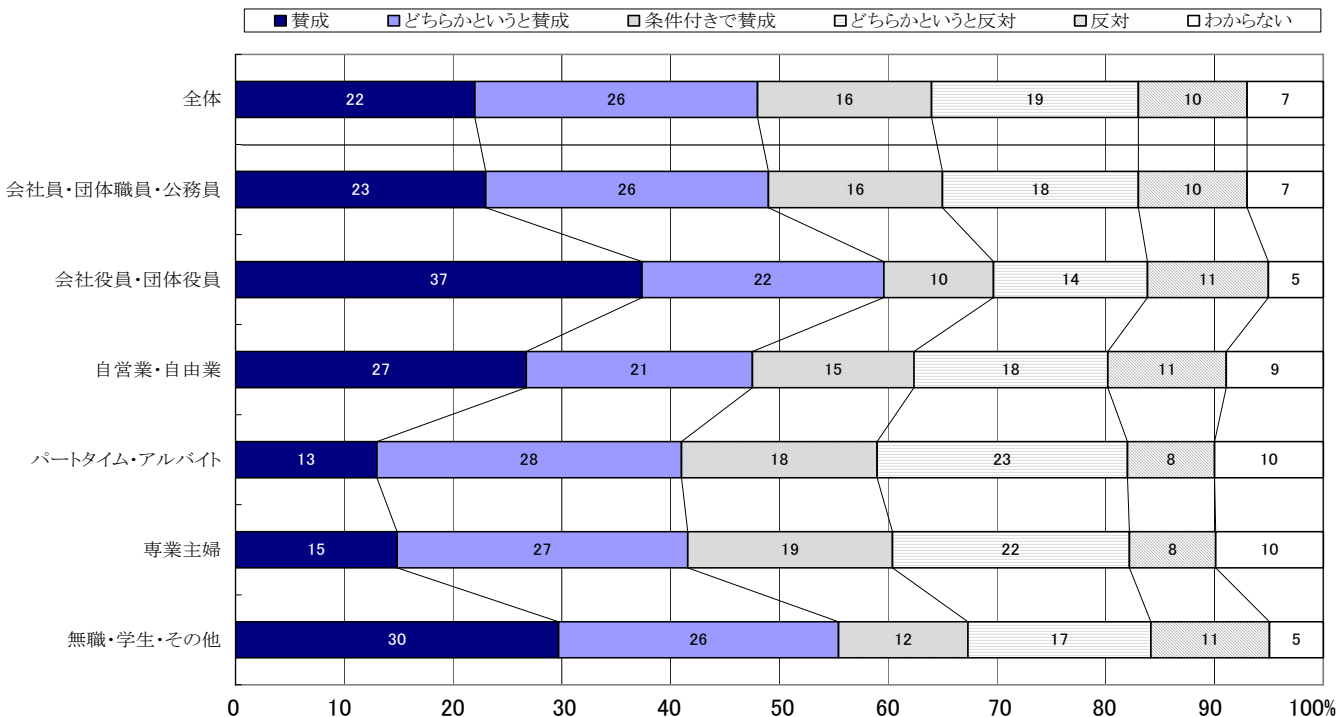
(3) あなたは、わが国におけるサマータイム制度の導入についてどのよう
にお考えですか。

【全員に質問(有効回答数:3,914人)】

<職業別>

- ◆ 職業別では、「会社役員・団体役員」「無職・学生・その他」が導入について積極的で、「賛成（賛成/どちらかというと/条件付きで）」と回答した割合が他の職業より高い(69%と68%)。
- ◆ 「パートタイム・アルバイト」では、「賛成（賛成/どちらかというと/条件付きで）」が50%台であるが、その他の職業ではいずれも60%台となっている。

職業別



*小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある。

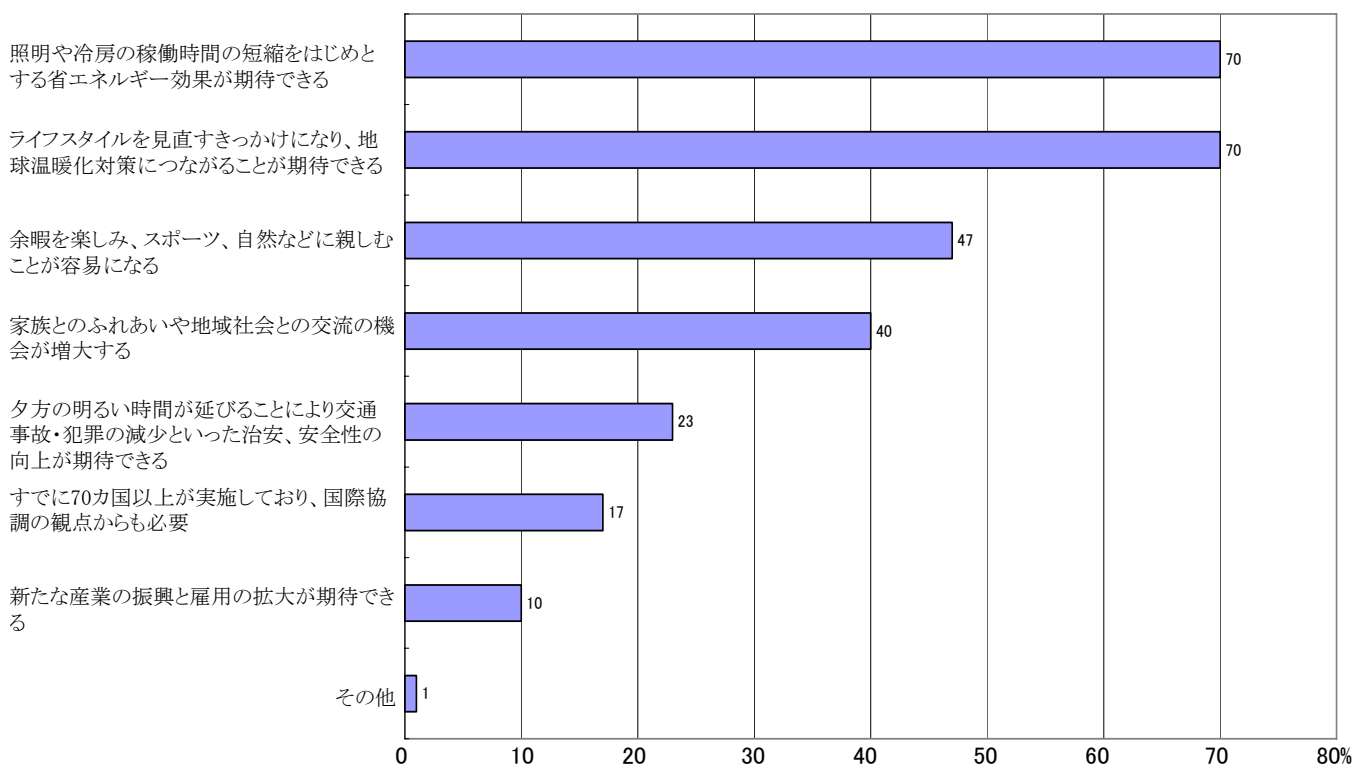
【2】 「サマータイム制度について」

(4) 賛成なのは、主にどのような理由からですか。

【(3)の質問で「賛成」「どちらかという賛成」「条件付きで賛成」と回答した人
(有効回答数:2,502人) 複数回答】

— 7割が「省エネルギー効果」と「地球温暖化対策につながる」 —

- ◆ 全体では、「照明や冷房の稼働時間の短縮をはじめとする省エネルギー効果が期待できる」「ライフスタイルを見直すきっかけになり、地球温暖化対策につながる事が期待できる」の回答割合が最も高く、それぞれ70%であった。



【 2 】 「サマータイム制度について」

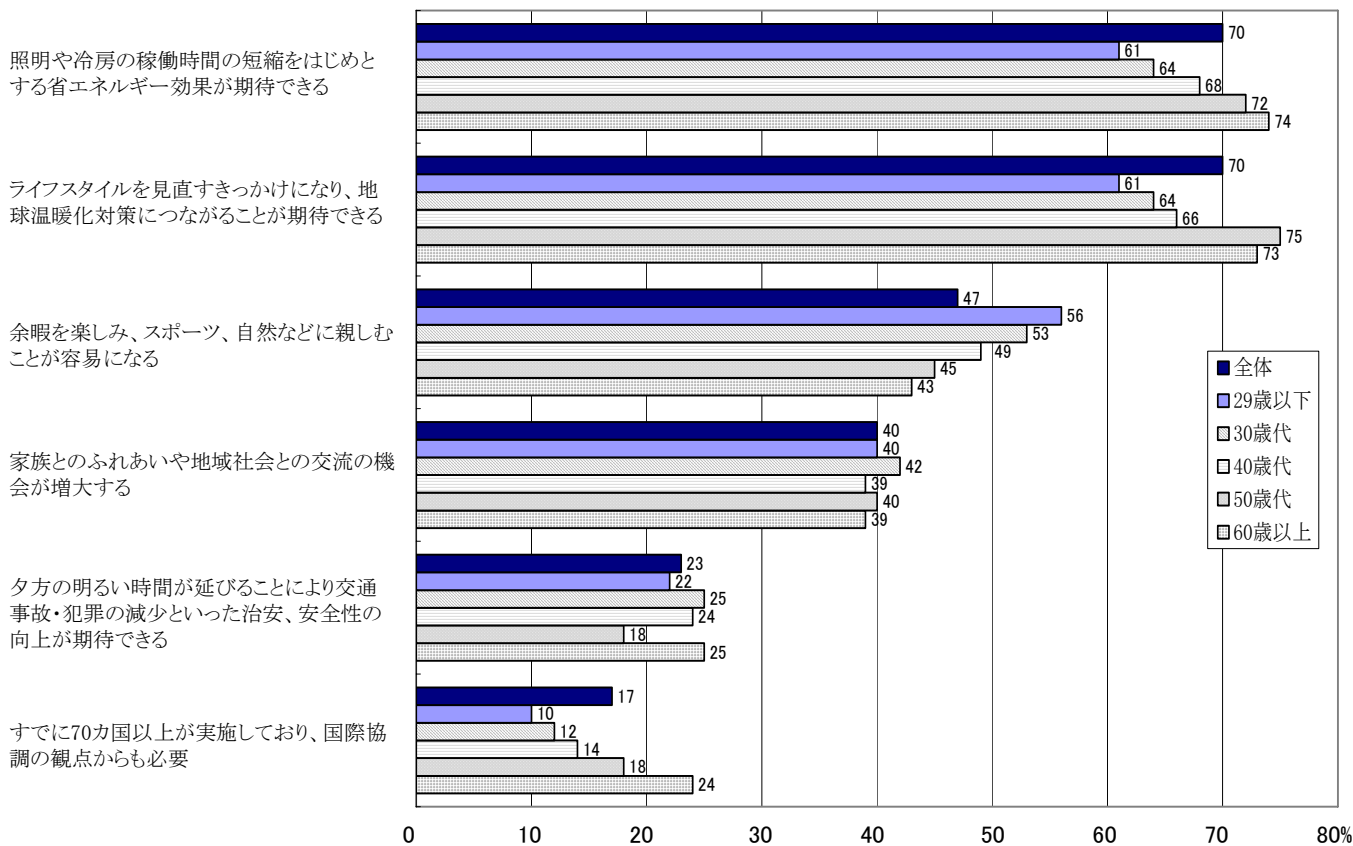
(4) 賛成なのは、主にどのような理由からですか。

【(3)の質問で「賛成」「どちらかという賛成」「条件付きで賛成」と回答した人
(有効回答数:2,502人) 複数回答】

<年代別>

- ◆ 年代別では、年代が高くなるほど「照明や冷房の稼働時間の短縮をはじめとする省エネルギー効果が期待できる」「ライフスタイルを見直すきっかけになり、地球温暖化対策につながることを期待できる」「すでに70カ国以上が実施しており、国際協調の観点からも必要」の回答割合が高くなっている。
- ◆ 「余暇を楽しみ、スポーツ、自然などに親しむことが容易になる」の回答割合は若い年代ほど高く、29歳以下は56%であった。

年代別



【2】 「サマータイム制度について」

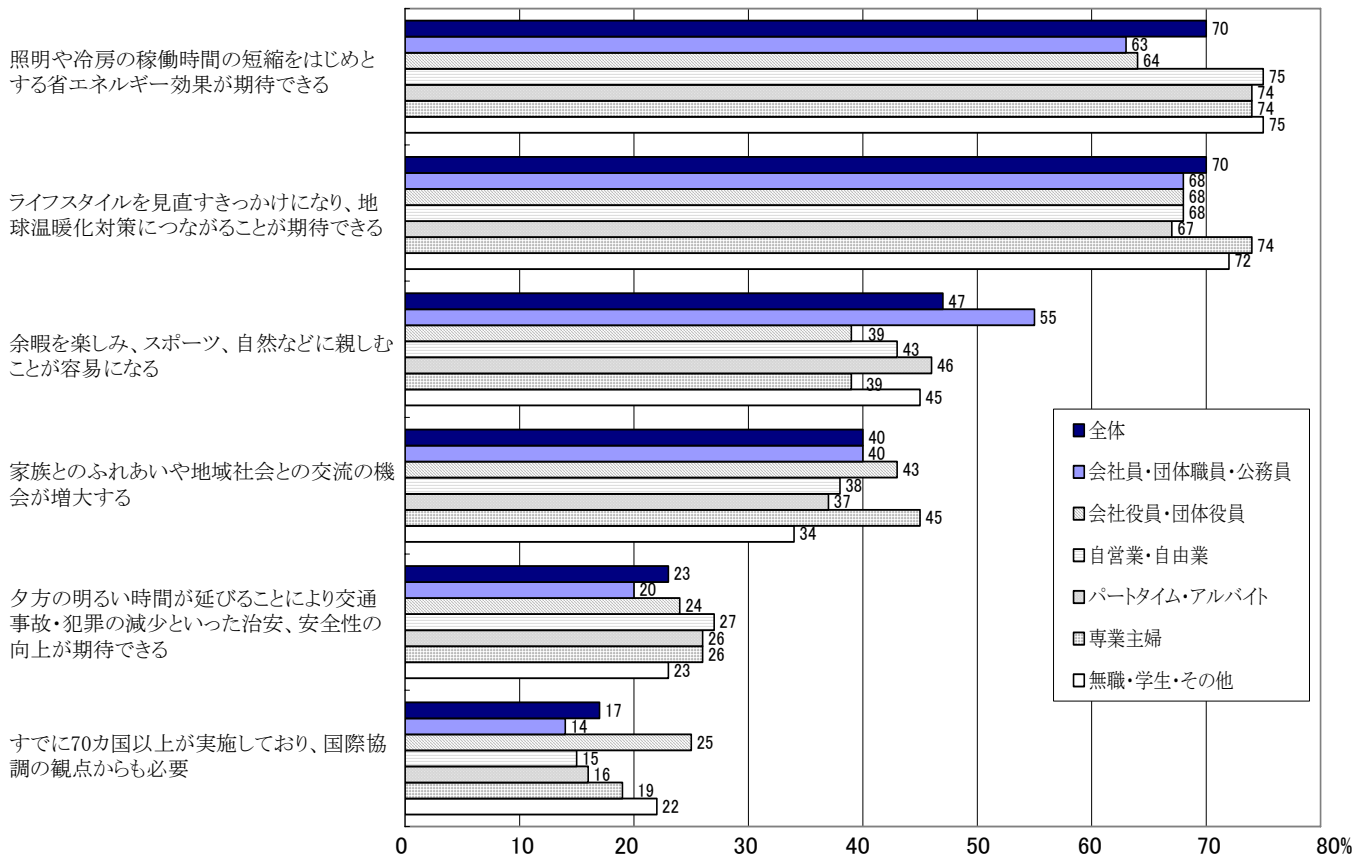
(4) 賛成なのは、主にどのような理由からですか。

【(3)の質問で「賛成」「どちらかという賛成」「条件付きで賛成」と回答した人
(有効回答数:2,502人) 複数回答】

<職業別>

- ◆ 職業別では、「会社員・団体職員・公務員」「会社役員・団体役員」は、「照明や冷房の稼働時間の短縮をはじめとする省エネルギー効果が期待できる」の回答割合が他の職業より低く、それぞれ63%と64%であった。
- ◆ 「余暇を楽しみ、スポーツ、自然などに親しむことが容易になる」の回答割合は、「会社員・団体職員・公務員」が他の職業より高く55%であった。
- ◆ 「家族とのふれあいや地域社会との交流の機会が増大する」の回答割合は、「専業主婦」「会社役員・団体役員」が他の職業より高く、それぞれ45%と43%であった。
- ◆ 「すでに70カ国以上が実施しており、国際協調の観点からも必要」の回答割合は、「会社役員・団体役員」が他の職業より高く25%であった。

職業別



【 2 】 「サマータイム制度について」

(4) 賛成なのは、主にどのような理由からですか。

(自由記述)

- ◆実施することで温暖化という問題を意識してもらおう。
- ◆季節に応じた働き方があると思う。
- ◆日本人は働きすぎだし、またエネルギーの節約も期待できる。
- ◆トータルメリットが多いことは実施国の多さが証明している。実施前から反対理由ばかり羅列するネガティブな議論に疑問を感じる。
- ◆デンマークの大学に招聘されて1年間滞在した経験から。日照時間の季節変動は日本とは大きく違うが、日本でも夕刻をゆっくりと過ごせるメリットは期待できる。
- ◆朝の涼しい時間帯に気持ちよく通勤できる。
- ◆交通機関の混雑が緩和されるのでは。
- ◆個人のライフスタイル見直しにつながる（温暖化対策にはならない）。
- ◆人間のバイオリズムに準ずることにより健康増進が期待できる。
- ◆生体リズムが望ましい形で健康が維持できる。
- ◆個人の時間を有効に利用できる。
- ◆早寝早起きの習慣が少しでもつく（児童の夜更かし防止）。
- ◆生体リズムの面から考えると理にかなった事であり、健康の維持・向上から、結果的に仕事の効率性につながるから。
- ◆仕事の効率が良くなる。
- ◆アメリカに住んでいた時、サマータイムを体験したが問題なかった（よかった）。
- ◆環境税より良い。
- ◆長い間実施されていないので、やってみるだけの価値はあると思う。
- ◆西日本に住んでいるため、夏は夜が長い（明るい時間が長いので）という実感があり、もったいない、といつも思っていた。
- ◆既存の社会システムや企業のあり方を見直す機会となり、例えば男女共同参画社会の実現などが大きく前進するきっかけとなる。
- ◆1年に2回時計を変えることでリフレッシュできる。新年（度）を迎えるような気分。
- ◆効果のほどはよくわからないが、試行すべきだと思う。
- ◆経済効果が期待される。

【2】 「サマータイム制度について」

(5) サマータイム制度の導入をどのくらいのタイムスケジュールで実施するのがよいとお考えですか。

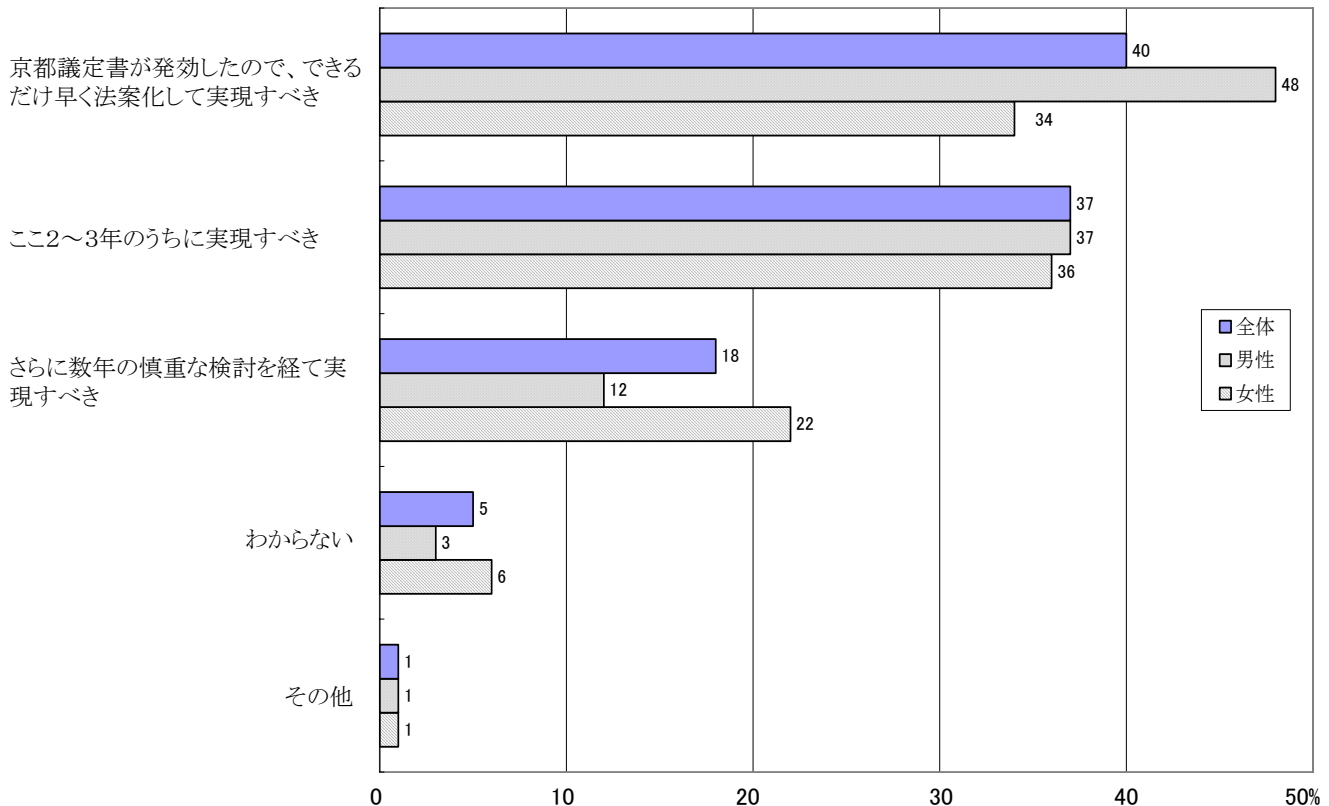
【(3)の質問で「賛成」「どちらかという賛成」「条件付きで賛成」と回答した人
(有効回答数:2,488人)】

＜男女別＞

— 8割が「できるだけ早く」「2～3年のうちに」実現すべき —

- ◆ 全体では、「京都議定書が発効したので、できるだけ早く法案化して実現すべき」と回答した割合が最も高く、40%。次いで、「ここ2～3年のうちに実現すべき」が37%でほぼ拮抗している。
- ◆ 男女別では、男性が「京都議定書が発効したので、できるだけ早く法案化して実現すべき」と回答した割合が高く、48%であった。
- ◆ 「さらに数年の慎重な検討を経て実現すべき」の回答割合は女性が男性より10ポイント高く、22%だった。

男女別



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある。

【2】 「サマータイム制度について」

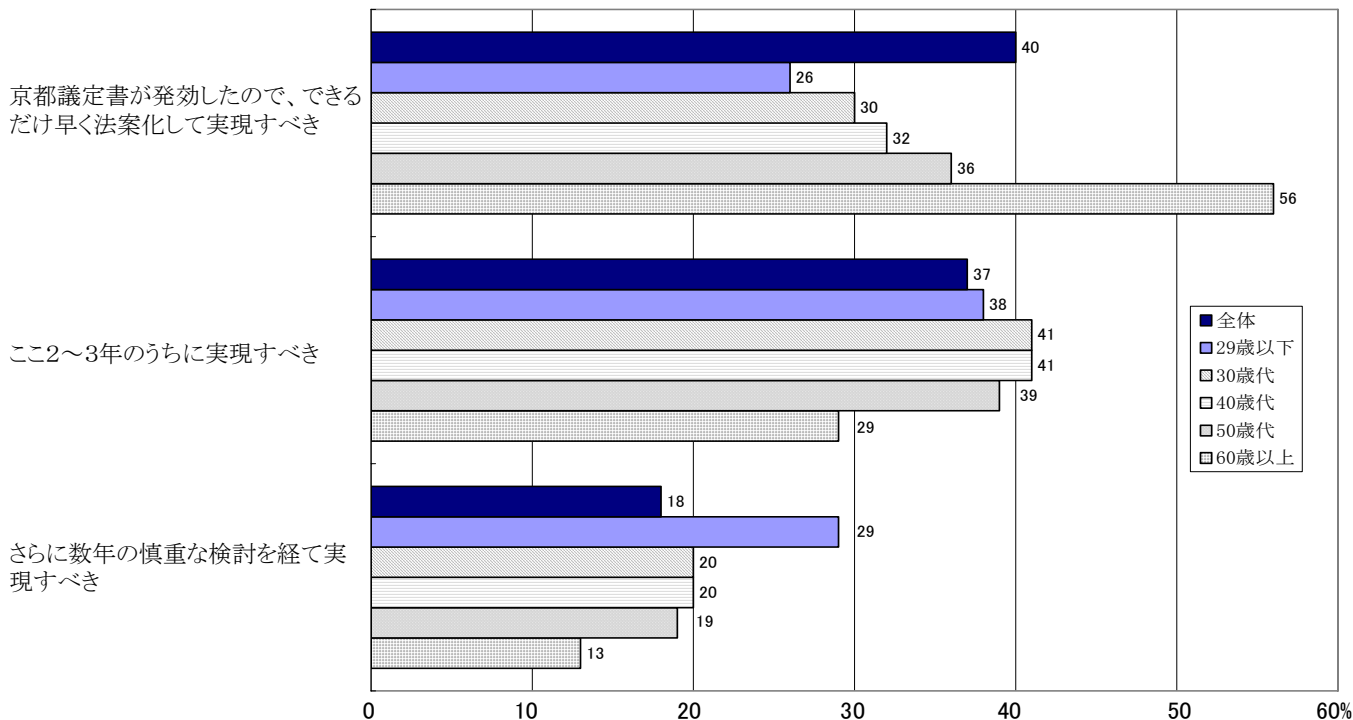
(5) サマータイム制度の導入をどのくらいのタイムスケジュールで実施するのがよいとお考えですか。

【(3)の質問で「賛成」「どちらかという賛成」「条件付きで賛成」と回答した人
(有効回答数:2,488人)】

＜年代別＞

- ◆ 年代別では、年代が高くなるほど「京都議定書が発効したので、できるだけ早く法案化して実現すべき」と回答した割合が高く、60歳以上では過半数の56%となった。
- ◆ 59歳以下は、「ここ2～3年のうちに実現すべき」の回答割合が、「京都議定書が発効したので、できるだけ早く法案化して実現すべき」の回答割合よりも高い。
- ◆ 29歳以下は、「ここ2～3年のうちに実現すべき」の回答割合が38%、次いで「さらに数年の慎重な検討を経て実現すべき」が29%、「京都議定書が発効したので、できるだけ早く法案化して実現すべき」が26%の順となり、導入に対して慎重な意見の方が多い。

年代別



【2】 「サマータイム制度について」

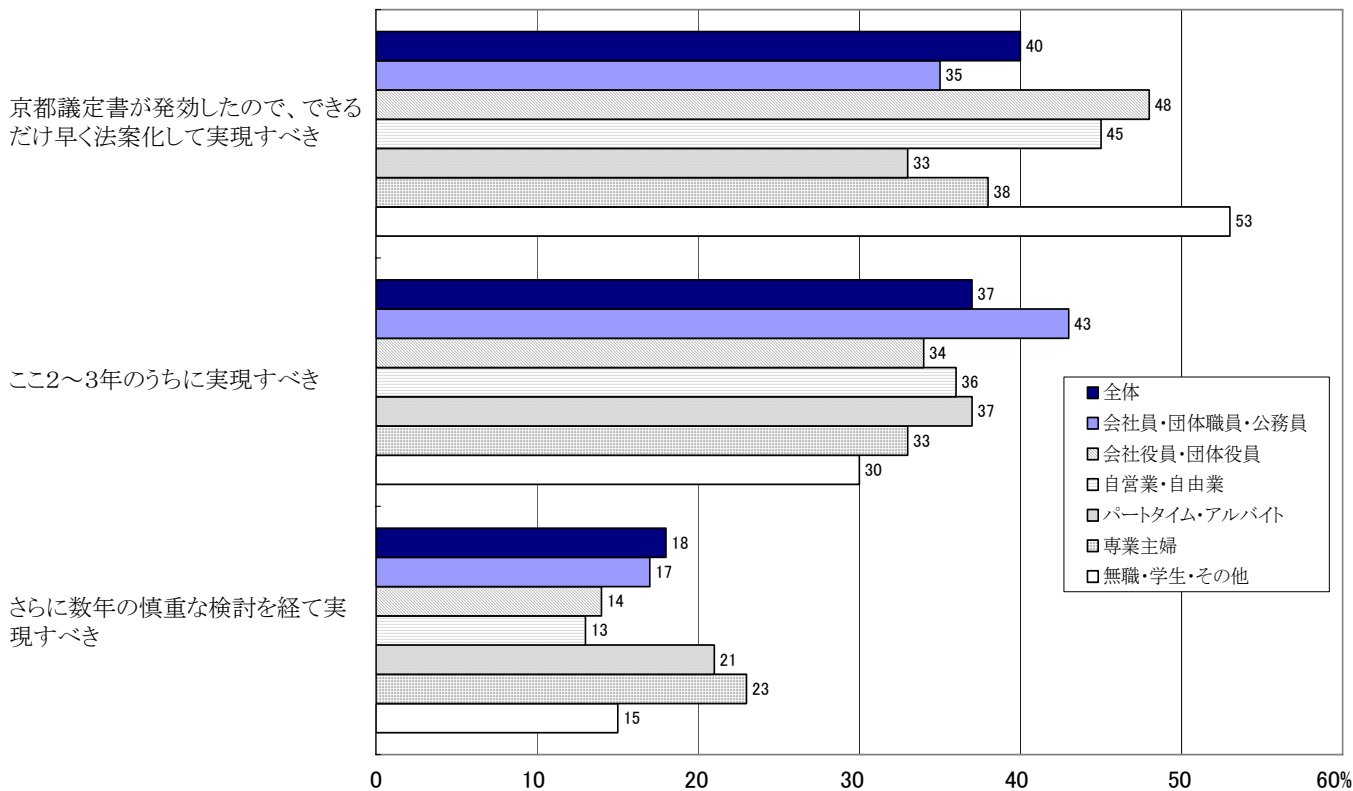
(5) サマータイム制度の導入をどのくらいのタイムスケジュールで実施するのがよいとお考えですか。

【(3)の質問で「賛成」「どちらかという賛成」「条件付きで賛成」と回答した人
(有効回答数:2,488人)】

<職業別>

- ◆ 職業別では、「無職・学生・その他」「会社役員・団体役員」「自営業・自由業」が、「京都議定書が発効したので、できるだけ早く法案化して実現すべき」の回答割合が他の職業と比べ高く、それぞれ53%、48%、45%となった。
- ◆ 「会社員・団体職員・公務員」は、「ここ2～3年のうちに実現すべき」と回答した割合が最も高く、43%だった。

職業別



【 2 】 「サマータイム制度について」

(5) サマータイム制度の導入をどのくらいのタイムスケジュールで実施するのがよいとお考えですか。

(自由記述)

- ◆ 試行実施も含め合意形成期間も必要。
- ◆ まず実施してみることが必要。
- ◆ 条件が満たされないと苦痛なものになる。社会丸ごと取り組む必要がある。現在の実験は中途半端で労働強化になる。
- ◆ 1年くらいで世論を問うて時限立法化して試行するのがよい。
- ◆ 3年程度トライをして比較検討し最終決定する。
- ◆ 数年中にどこかの地域でやってみて検討した方がよい。
- ◆ 政治家、専門家、官僚による検討会により法案化するのではなく、広く国民の意見を聞く機会をつくり慎重に検討し、実現可能な制度とする（成人だけでなく、学生などの意見も聞き、制度導入により家庭生活も大きく変化するはずなので検討が必要）。
- ◆ 議定書に関係なく早く実施するべきものだったと思う。
- ◆ 種々起こるであろう混乱に十分対応できる様にしてから実施する。
- ◆ 各団体・地域差など踏まえて慎重に討議して。
- ◆ 自然エネルギーの利用といった面からもなるべく早い実現を望む。

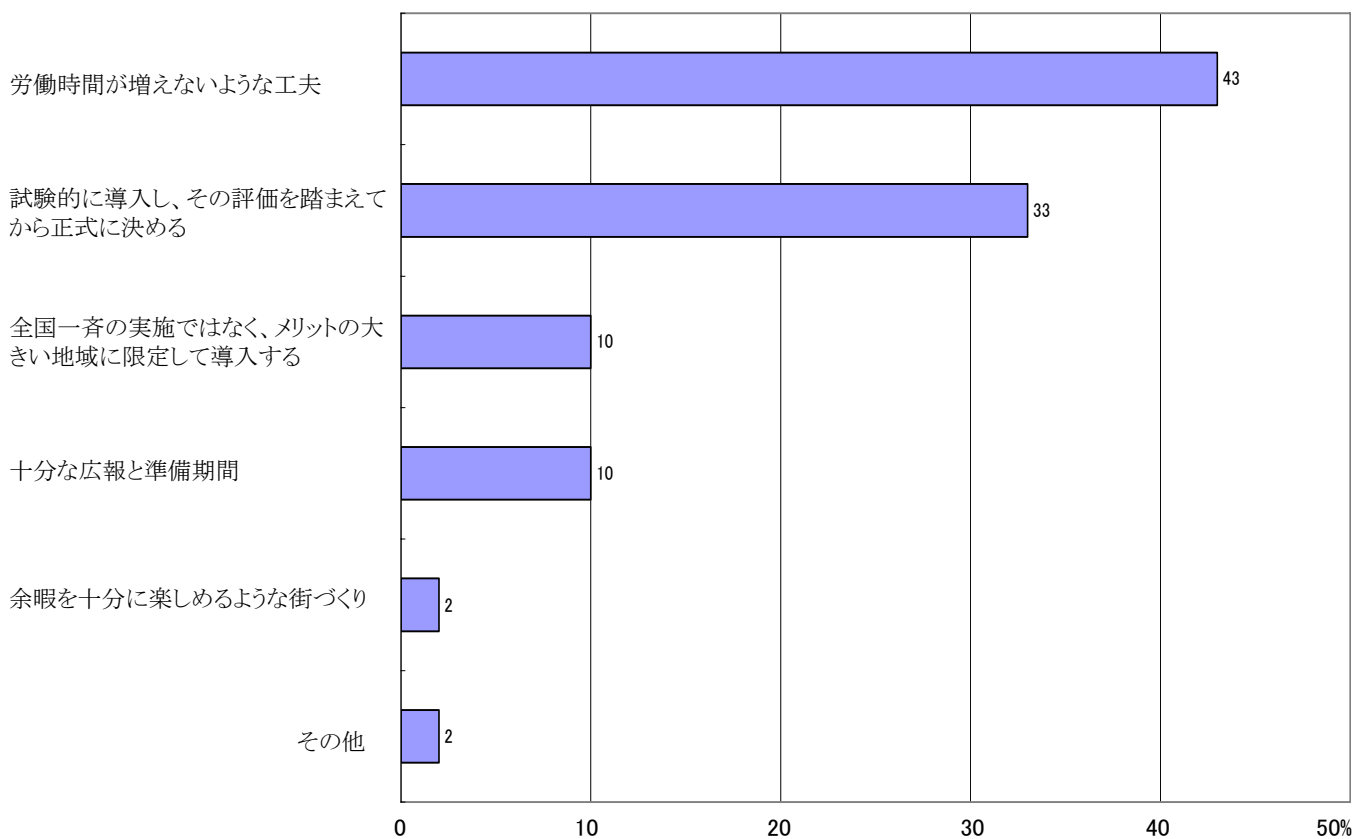
【 2 】 「サマータイム制度について」

(6) 必要な条件とは何ですか。

【(3)の質問で「条件付きで賛成」と回答した人(有効回答数:613人)】

— 必要な条件は「労働時間が増えない工夫」「試験的に導入してから」—

- ◆ 全体では、「労働時間が増えないような工夫」と回答した割合が最も高く、43%であった。次いで、「試験的に導入し、その評価を踏まえてから正式に決める」が33%の順となった。
- ◆ 「余暇を十分に楽しめるような街づくり」の回答割合は2%と低い。



*小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある。

【2】 「サマータイム制度について」

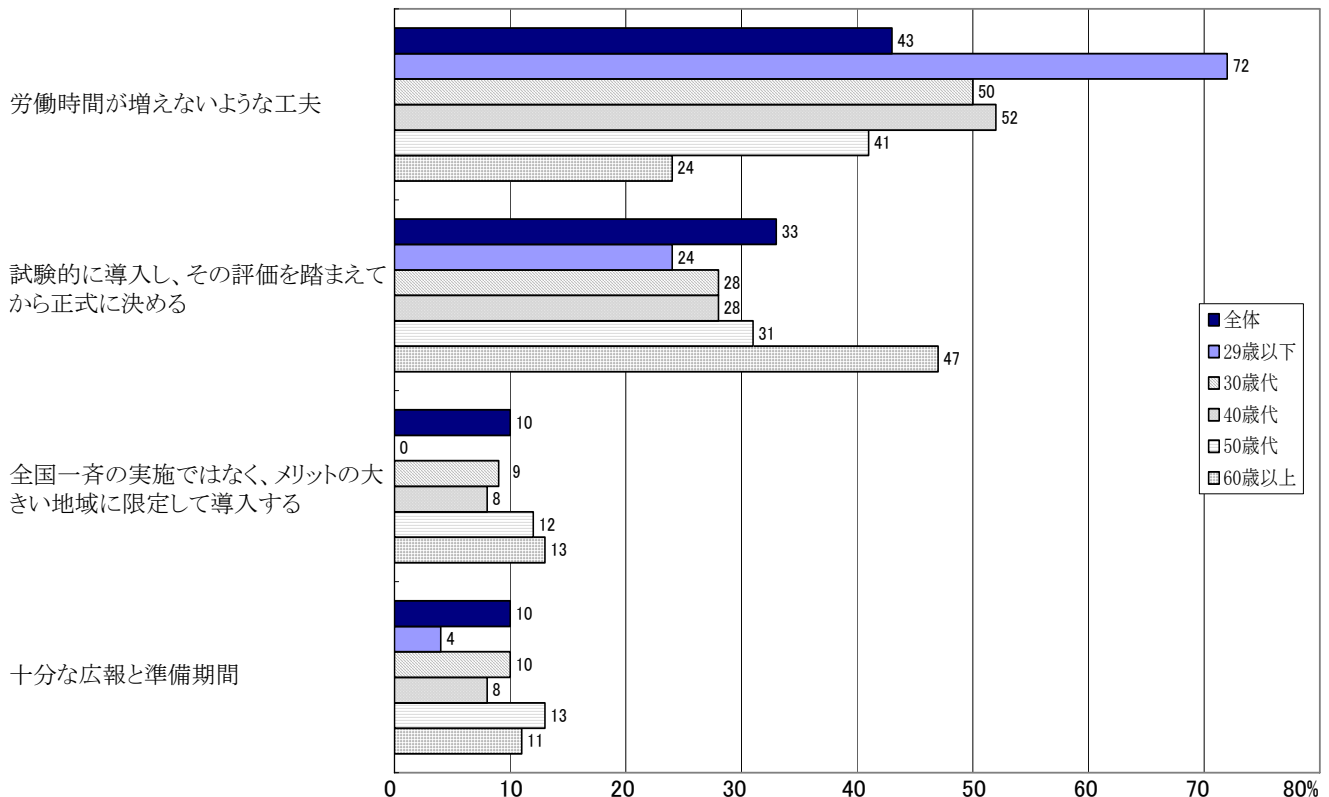
(6) 必要な条件とは何ですか。

【(3)の質問で「条件付きで賛成」と回答した人(有効回答数:613人)】

<年代別>

- ◆ 「労働時間が増えないような工夫」では、年代が若いほど回答割合が高くなっている。
- ◆ 「試験的に導入し、その評価を踏まえてから正式に決める」では、逆に年代が高いほど回答割合が高くなっている。

年代別



【 2 】 「サマータイム制度について」

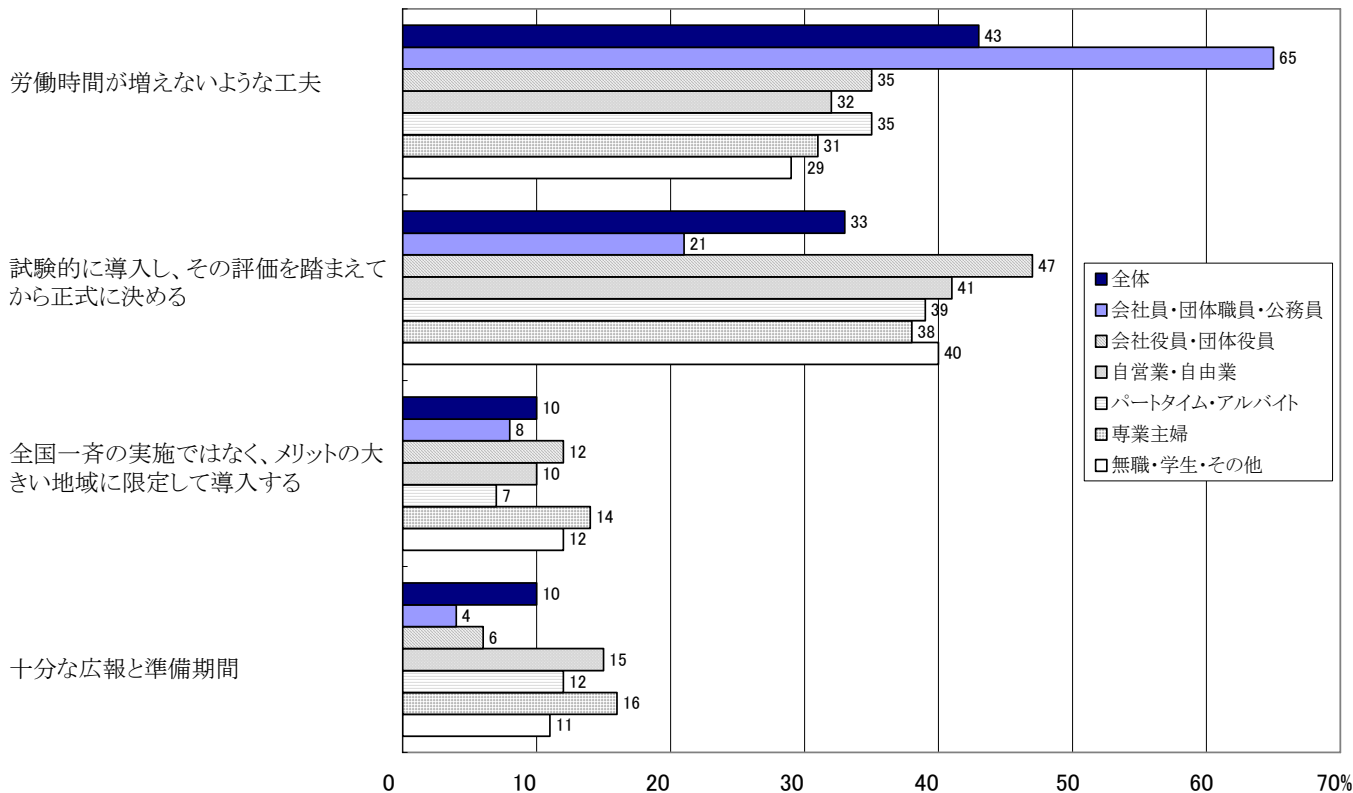
(6) 必要な条件とは何ですか。

【(3)の質問で「条件付きで賛成」と回答した人(有効回答数:613人)】

＜職業別＞

- ◆ 職業別では、「会社員・団体職員・公務員」が「労働時間が増えないような工夫」と回答した割合が全体と比べ22ポイント高く、65%となった。
- ◆ 「会社員・団体職員・公務員」以外の職業は、「試験的に導入し、その評価を踏まえてから正式に決める」の回答割合が最も高い。

職業別



【 2 】 「サマータイム制度について」

(6) 必要な条件とは何ですか。

(自由記述)

- ◆金融機関の決済時限などの問題が解決されてからの導入。
- ◆ヒートアイランド現象に対する対策の推進。
- ◆この国では以前短期間だが制度を導入したことがある。その時の反省に立つことと、人々の健康や社会の安全に留意すること。
- ◆具体的にどれだけの省エネルギー効果があるか示して欲しい。
- ◆ライフスタイルを変える下地づくり。
- ◆景気がもう少し良くなってから。
- ◆各分野における詳細なアセスメント。
- ◆国内の時差、経・緯度を計算すべき。

【 2 】 「サマータイム制度について」

(7) 反対なのは、主にどのような理由からですか。

【(3)の質問で「どちらかという反対」「反対」と回答した人(有効回答数:1,120人)

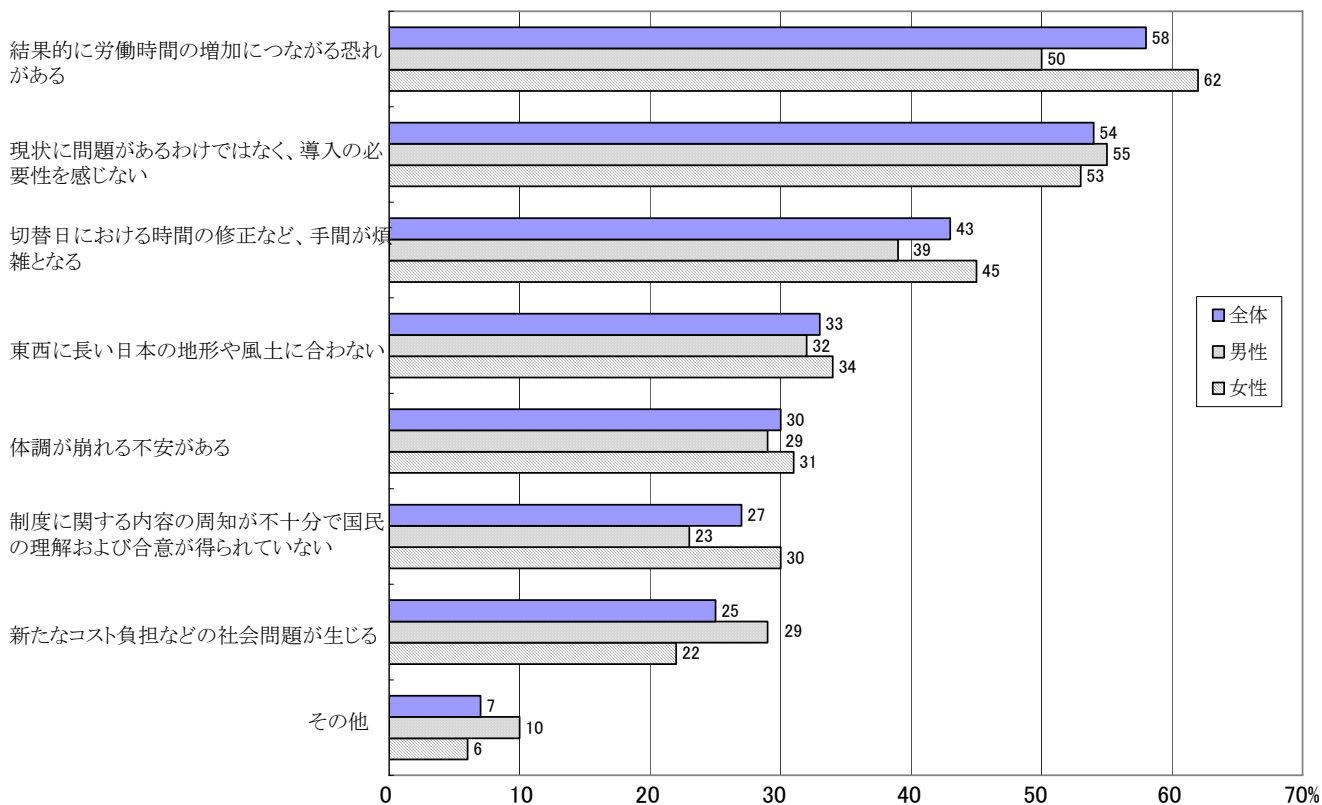
複数回答

<男女別>

一 反対の理由は「労働時間の増加の恐れ」「導入の必要性を感じない」一

- ◆ 全体では、「結果的に労働時間の増加につながる恐れがある」と回答した割合が最も高く、58%だった。次いで、「現状に問題があるわけではなく、導入の必要性を感じない」が54%、「切替日における時間の修正など、手間が煩雑となる」が43%の順となった。
- ◆ 「結果的に労働時間の増加につながる恐れがある」では、女性の回答割合が男性と比べ12ポイント高く、62%であった。

男女別



【2】 「サマータイム制度について」

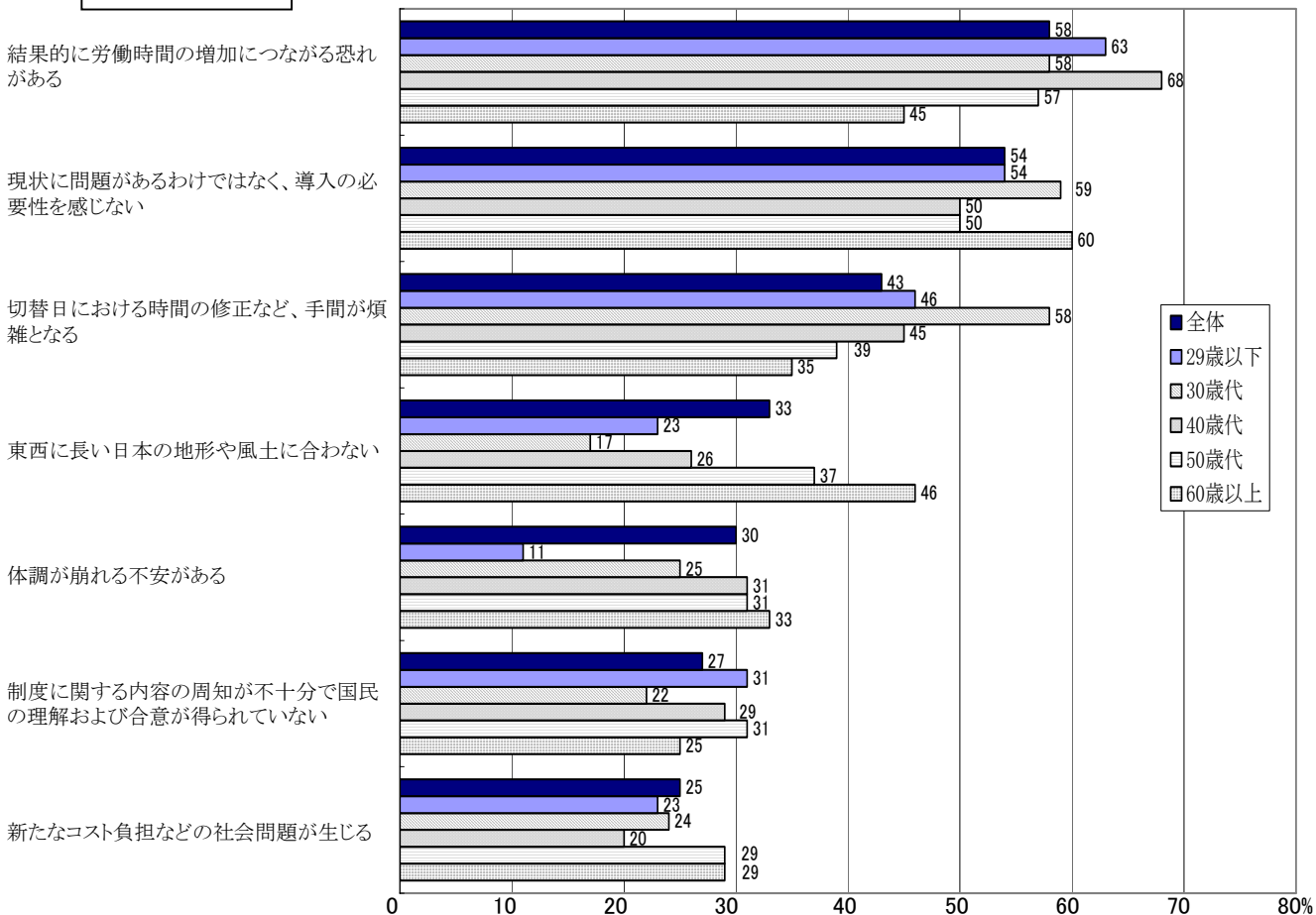
(7) 反対なのは、主にどのような理由からですか。

【(3)の質問で「どちらかという反対」「反対」と回答した人(有効回答数:1,120人)
複数回答】

<年代別>

- ◆ 年代別では、40歳代が「結果的に労働時間の増加につながる恐れがある」と回答した割合が他の年代と比べ高く、68%であった。
- ◆ 30歳代では、「結果的に労働時間の増加につながる恐れがある」「現状に問題があるわけではなく、導入の必要性を感じない」「切替日における時間の修正など、手間が煩雑となる」の回答割合がほぼ同じとなり、それぞれ58%、59%、58%であった。
- ◆ 60歳以上は、「現状に問題があるわけではなく、導入の必要性を感じない」の回答割合が最も高く、60%だった。次いで、「東西に長い日本の地形や風土に合わない」が46%、「結果的に労働時間の増加につながる恐れがある」が45%、「切替日における時間の修正など、手間が煩雑となる」が35%であった。

年代別



【 2 】 「サマータイム制度について」

(7) 反対なのは、主にどのような理由からですか。

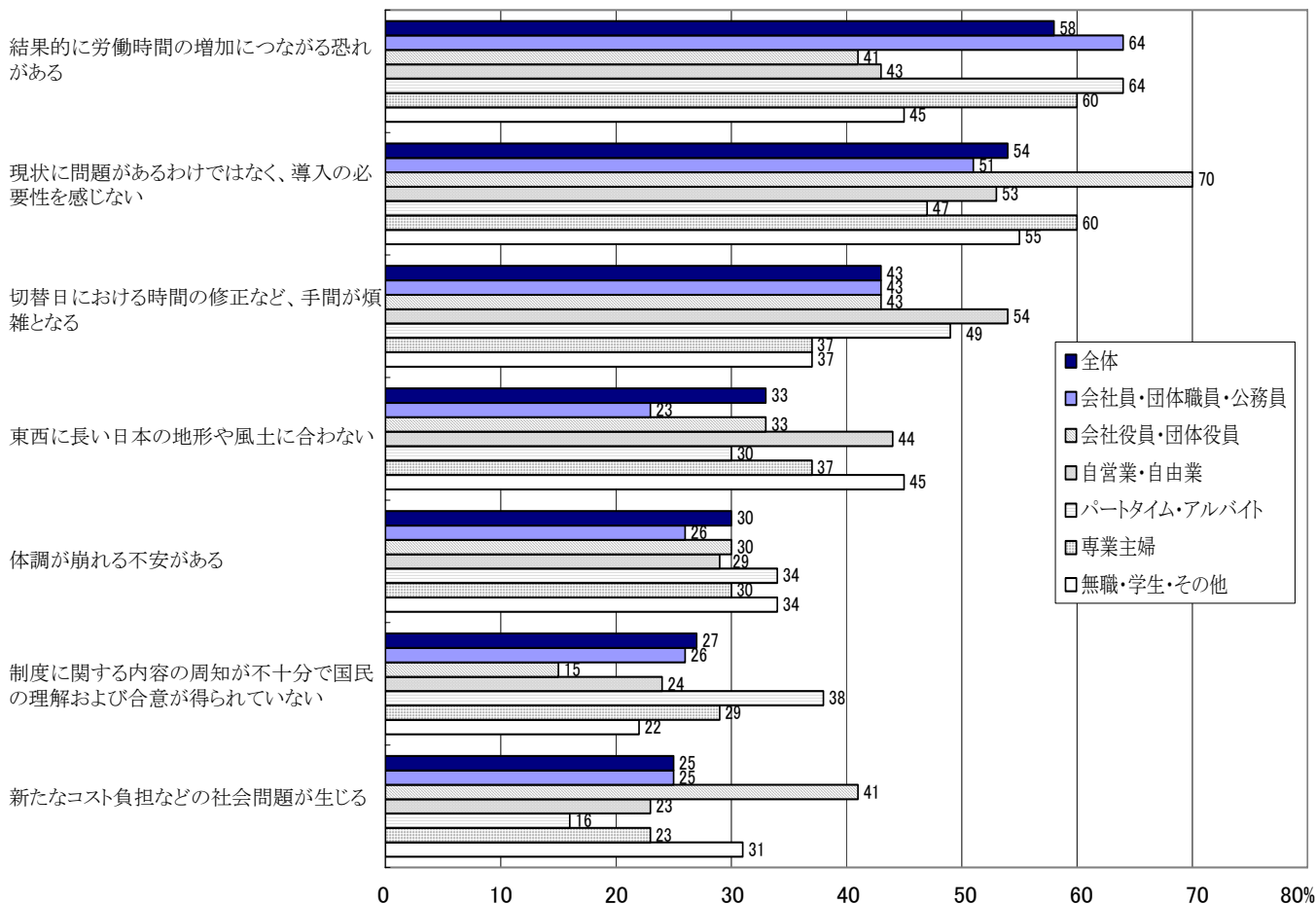
【(3)の質問で「どちらかという反対」「反対」と回答した人(有効回答数:1,120人)

複数回答

<職業別>

- ◆ 職業別では、「結果的に労働時間の増加につながる恐れがある」においては「会社員・団体職員・公務員」と「パートタイム・アルバイト」がともに64%で最も高かった。
- ◆ 「現状に問題があるわけではなく、導入の必要性を感じない」では「会社役員・団体職員」が70%で最も高く、次いで「専業主婦」が60%であった。
- ◆ 「切替日における時間の修正など、手間が煩雑となる」では「自営業・自由業」が54%で最も高く、次いで「パートタイム・アルバイト」が49%であった。

職業別



【 2 】 「サマータイム制度について」

(7) 反対なのは、主にどのような理由からですか。

(自由記述)

- ◆導入にコストを要する割りに、効果が疑問。
- ◆本当に省エネルギーになるのか疑問である。労働時間増加につながる。
- ◆省エネ効果と経済活性化効果と、矛盾した効果を、都合よく宣伝文句に使っている。
- ◆夕方の中でも室内にいれば照明は必要。
- ◆フレックスタイム制等が浸透している現状にはそぐわない。
- ◆サマータイム導入国と業務関係があるが、デメリットを感じているため。
- ◆サマータイムを導入しなくても同じ事を行えるのではないか。社会全体が季節により、開店時間就業開始時間の変更をすれば良いだけではないのか。
- ◆多くサマータイムをとり入れている欧州とは緯度が違う。日照時間差がそれ程多くないので効果はほとんど望めない。
- ◆夜が長くなり、逆効果の可能性もある。
- ◆長所短所を具体的に検討してから結論を出すべきである。
- ◆日本人の生活習慣になじまない。
- ◆前回経験済み。マイナス面ばかり感じ疲れた。
- ◆戦後、欧米が実施しているからと言うことで、わが国でも行われた事があったが、日本の実情に合わないので取りやめになった。この失敗と照らし合わせて、現状が以前の環境とどのように変わってきたので、実施したいのか明確な方針が出されていない。祝日を月曜日に変更する施策も当初言われていたほどのメリットが出ていない。最近の方針は、思いつきと言うと失礼だが、深く考えないで提案されているものがあるように思える。
- ◆温暖化防止、環境改善に寄与するとは思えない。
- ◆私たちにしっかりした説明をまずして欲しいと思う。
- ◆過去の導入を経験している人が、サマータイムは良くなかったと言っているのをテレビや新聞そして身近な人からも聞いているので。
- ◆あえて時刻を変えなくても人それぞれに、季節に応じた時間の活用方法があると思う。

【 2 】 「サマータイム制度について」

(8) 日本経団連では、「京都議定書目標達成計画策定」の要望の中で、サマータイム制度は家庭部門にも省エネルギーによる地球温暖化対策への波及効果が期待できるとしていますが、皆さんは、地球温暖化対策の効果についてどのように思われますか。

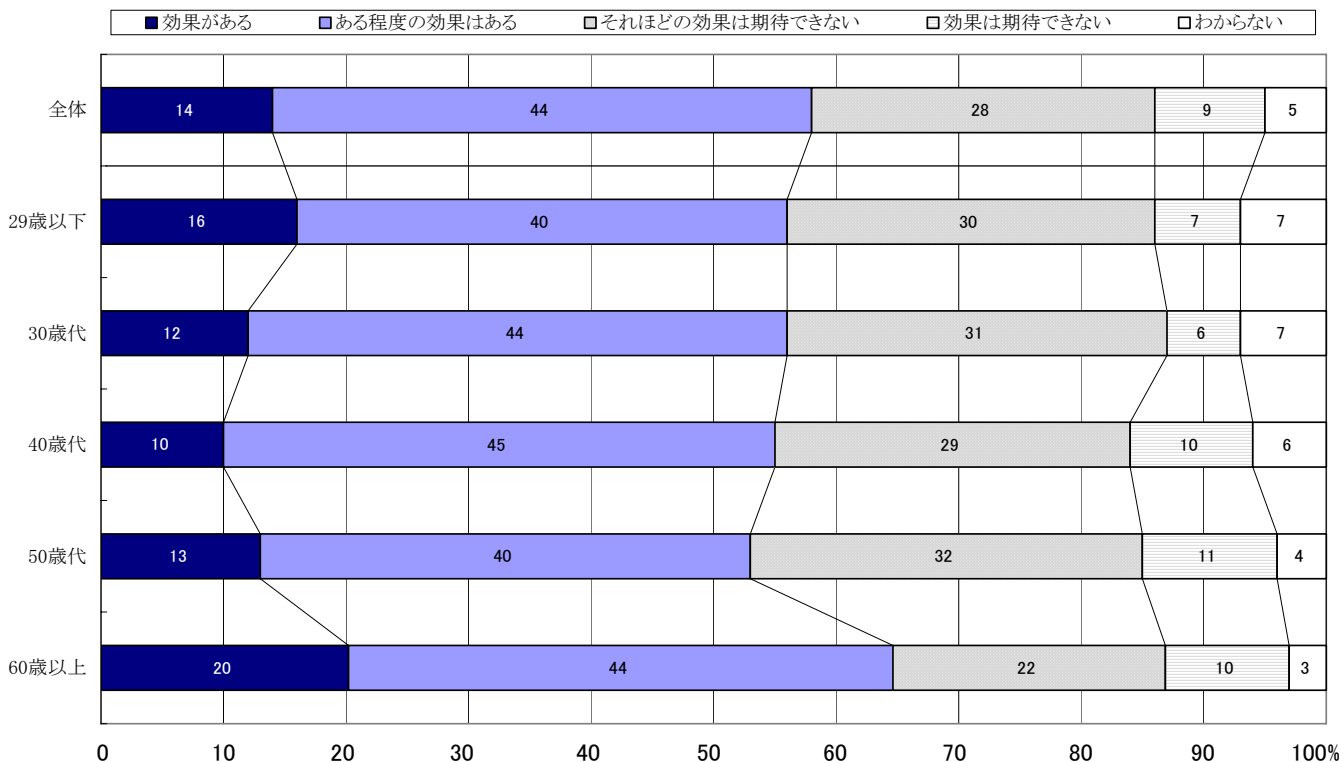
【全員に質問(有効回答数:3,878人)】

<年代別>

— 過半数が「効果がある（効果がある/ある程度の効果はある）」 —

- ◆ 全体では、「効果がある」「ある程度の効果はある」と回答した割合は58%であった。
- ◆ 年代別では、60歳以上の「効果がある」「ある程度の効果はある」と回答した割合は他の年代と比べ高く、64%であった。その他の年代は53%～56%の範囲内で大きな差はなかった。

年代別



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある。

【 2 】 「サマータイム制度について」

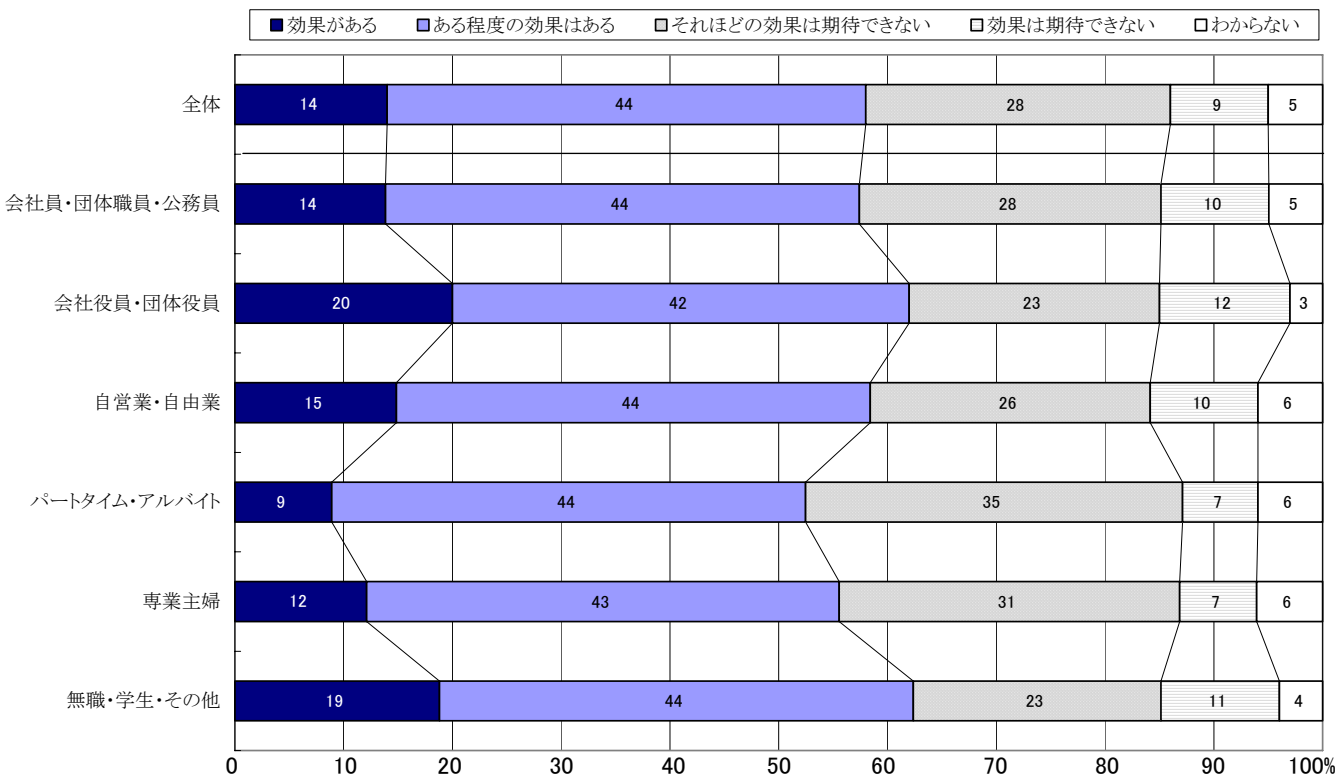
(8) 日本経団連では、「京都議定書目標達成計画策定」の要望の中で、サマータイム制度は家庭部門にも省エネルギーによる地球温暖化対策への波及効果が期待できるとしていますが、皆さんは、地球温暖化対策の効果についてどのように思われますか。

【全員に質問(有効回答数:3,878人)】

＜職業別＞

- ◆ 職業別では、「無職・学生・その他」「会社役員・団体役員」が「効果がある」「ある程度の効果はある」と回答した割合が他の職業と比べ高く、それぞれ63%と62%だった。
- ◆ 「パートタイム・アルバイト」と「専業主婦」は、「効果がある」「ある程度の効果はある」の回答割合が他の職業と比べ低く、それぞれ53%と55%だった。

職業別



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある。

【3】 「自由記述」

サマータイム制度に関する意見・感想

■「サマータイム制度」に関する意見・感想を、自由記述方式で回答してもらった。その中から 主なものを、以下に列記する。

29歳以下の意見・感想

- ◆過去に導入したのち、廃止になった経緯を分析し、その失敗要因を解消しなければ、導入は難しいと思う。
- ◆いくら国際的に見て多くの国でサマータイム制度が活用されているとはいえ、風土、文化が異なる日本においては、外国のサマータイム制度をそのまま導入するのではなく、日本に合うようアレンジすることが必要と思われる。
- ◆導入するのであれば、何故導入するのか、導入するとどうなるのか、という部分をしっかりと説明する必要が有る。なんとなく崩壊的に始まって、不満が先立つのは目に見えている。まずは理解を求めるべきだろう。
- ◆夏の夜の明るい時間を使って、家族や友人と過ごすスローライフを実現できると思う。実行するならば、全国的にするべきであり、省エネにもつながるので、地球環境を考える一つのきっかけになるだろう。
- ◆サマータイム制度がどういったものか知っているが、どのようなメリット・デメリットがあるか、もっと周知させる必要があると思う。知らないからあまり議論がおこらないように思う。
- ◆環境や、生活スタイルを見直す点でも、良い制度だと思う。しかし、一律で進めてしまうのではなく試験的実施を行ってから、制度化するのが良いと思う。
- ◆サマータイム制度が地球温暖化対策へ効果があるということをもっとアピールすべき。仕事とは直接関係しないため、情報が乏しく、意識も低いと思う。
- ◆昨年北海道で実験的に導入した経験では全体的に好印象だった。夕方の消費を引き出した効果もあっただろうし、エネルギー消費が抑えられたかは不明だが、効率的に使用されるようになったと思う。生活を見直すきっかけにもなったと思う。
- ◆現在この制度が検討されていることを知っている国民がどのくらいいるのだろうか。

◆サマータイム制度導入前に有効的な時間の使い方について、具体的な方法を伝えたり、学習、準備期間をつくって欲しい。

30歳代の意見・感想

- ◆24時間営業のスーパーがある現状で、地球温暖化への効果があるというのには疑問を感じる。社会的なコスト負担の方が大きいのではないかな。
- ◆「ライフスタイル」を見直すきっかけになり、社会経済的に一つの刺激となることは間違いなし。省庁横断的にコンセンサスを得る取り組みを加速すべき。
- ◆「試行」でも良いので、できるだけ早く導入してみる必要がある。実施してみないとメリット・デメリットも見えてこないと思う。
- ◆サマータイム制度については昔導入した際に失敗しているので反対意見が多いが、現代の事情にあわせて制度を構築すれば諸外国では成功していることもあり、よい効果が期待できると思う。
- ◆広報等をして国民的な議論を喚起すべき。
- ◆省エネ効果の試算はいろいろ行われており、ある程度効果が期待できそうだ。なので、一度実施し、効果を確認したらよい。
- ◆フレックスタイム制や有休の分割利用など就業時間の流動化も進んでいる中で、サマータイムを導入した場合、企業によっては長時間労働につながりかねない危険も含んでいると思う。導入にあたっては、日本固有の事情も十分配慮する必要があると思う。
- ◆都市部において夏の夜は異常に暑い。日常生活にも差し障りがあると毎夏感じる。エネルギー問題を考えても朝涼しいうちに活動を始めることの必要性を感じている。
- ◆制度を導入したらどのように省エネになるかを もっと宣伝すべき。

【3】 「自由記述」

サマータイム制度に関する意見・感想

- ◆以前にも、サマータイム制度を取り入れた事があると聞いたが、何故定着しなかったのか、広くゆきわたらなかったのかよく検討して同じ道をたどらない様にとと思う。
- ◆現在の日本は明らかに夜型社会になっている。このような状況で導入した場合、産業部門の消費エネルギーは軽減する可能性はあるかと思うが、その分民生部門で余暇などで消費エネルギーが増えて省エネ効果をあまり実感できないのではないか。
- ◆アメリカに在住していた時にサマータイムを経験した。何の問題もなく実施されていたし、そのことによって省エネルギーが実現されるのであれば賛成。
- ◆生活サイクルの変化が期待できるので早朝に実施した方が良い。先進国で概に実施している国においてのメリット・デメリットを知りたいと思う。
- ◆今は昔とは違って様々なシフトで働く人が増加し、24時間営業も増えていく中で「サマータイム制度」が省エネルギーに結びつくとは思えない。機械的な設定や仕組みなどの変更にただ混乱をきたすだけのように思える。
- ◆幾度となくサマータイム制度は検討されていると思うが、進んでいない。問題点を明確にして欲しい。アメリカ生活で4年経験したが、慣れれば自然環境に親しめ、エネルギー問題を意識できるきっかけになると思う。ぜひ実現させて欲しい。

40歳代の意見・感想

- ◆日本の気候は恵まれていると思うが、夏の蒸し暑さだけは体に負担がかかり、仕事・勉強の効率の低下を生んでいる。その軽減のために、過度な冷房になっている夏の快適な時間帯である朝に仕事ができるようにした方がよい。
- ◆「サマータイム」について、もっと利点を知らなければ（知らせなければ）、議論がもちあがらない（関心がもてない）と思う。
- ◆10年も前から連合等が取り組んでいたのに、真剣に考えるのに時間がかかりすぎる。結論を出し段階的にでも実施しなければ意味がないと考える。
- ◆サマータイム制は省エネだけでなく、労働の活性化等プラス面が多いと思うので早急に導入した方がよい。
- ◆サマータイム制度の導入にあたっては、「何のために」「どのような日本にするべきか」などに関わる共通理解を国民が持つことが重要であると思う。
- ◆サマータイム制度導入による省エネ、地球温暖化対策につながる効果などが十分に周知されているとは現状では言い難い。具体的な数値を示してPRすることが更に必要と考える。
- ◆実施するにあたって、その必要性や効果を周知するよう望む。各自の意識を高めるような取り組みをすべき。

50歳代の意見・感想

- ◆サマータイムを導入している国は省エネの観点から導入しているかどうかは判らないが、仕事が終わってからの余暇時間が増えライフスタイルや余暇時間の充実、新たな雇用の増進等が期待でき良いと思う。
- ◆自然に合わせた生活リズムに変えることが必要。固定された時間から時間ではなく、人が動きを変えることにより自然への負荷は必ず変わる。一時ノーネクタイ、半袖を推奨した時代があったが、悪い点だけを取り上げられ続かなかった。まず実行、継続できる風土、体制をつくる必要がある。
- ◆サマータイム推進に関する行政レベルのアナウンスがまだまだ不十分であり、何故サマータイムが必要なのかという点の国民の理解は不足している。
- ◆家庭生活の習慣を見直すことが大切。次に企業では、目標を持った効果的な働き方を検討すること。
- ◆エネルギーの無駄遣いをできるだけ少なくする方法の一つということで、環境問題を考えるきっかけになり、また地球温暖化問題の解決への参加意識を持てることはとても重要だと思う。
- ◆省エネ・地球温暖化防止などの環境対策に有効なのを知識としては理解できても初めての試みなので戸惑いはある。どの程度順応できるか不安がありもっと経験談など広報活動に力を入れ、周知徹底を図った上で導入すべき。

【3】 「自由記述」

サマータイム制度に関する意見・感想

- ◆国民がサマータイムの意義を、十分認識してから実施すべき。
 - ◆地球温暖化防止策はまったなしの実行を迫られている。できることから試験的にでも実施してみても、効果を測定しより効果的な施策を実行していくべきである。
 - ◆日本全体が眠らない街になってしまった今、サマータイム制度の導入がライフスタイルを変え、省エネルギー効果をもたらすと考えにくい。
 - ◆省エネによる地球温暖化対策は企業ばかりでなく各家庭においてもできることをできる範囲で精一杯やっていくことは当然だと思う。その意味ではサマータイム制度は実質的にもそういうことに対する意識を高める意味でも重要な役割を果たすことと思う。
 - ◆労働時間が増加するのではないかとの危惧もあると思うが、着手しないと問題点もみえてこないと思う。地球温暖化対策を含め、自然に沿った生活をする。その中で地球にやさしい生き方を考える時期が、おとずれているのではないかと思う。
- #### 60歳以上の意見・感想
- ◆省エネの観点からぜひサマータイムはやるべき。政府はもっと周知活動を行ない、積極的に推進して欲しい。
 - ◆企業では省エネ効果、家庭ではライフスタイルを変えて省エネ及び自分の時間をつくり出すことができる。やはり自然の恵みを有効に使うことがこれからはぜひ必要と思う。
 - ◆時間調整など不便さを伴うが、実施による省エネ効果は大きい。もっと高緯度の国のほうがさらに効果があるが、日本が取り入れられない理由は乏しい。太陽や自然の恵みに敬虔に感謝する気持ちも高まると思う。
 - ◆一時実施した時と、我が国の社会構造は大きく変化しているので、現代における実施の長所短所を具体的に明らかにしてから検討すべきである。現在では検討が不十分である。
 - ◆サマータイム制度の実施はメリットがある反面、労働時間の増加が懸念される。十分な検討を加えた上で実施すべきだと考える。外国で既に実施しているからという理由で実施すべきでない。それぞれの国情によるべきだ。
 - ◆夜間営業のコンビニ、スーパー等を含め無時間のよう社会状況になっている中で、時計の時刻のみを進めたり遅らせたりすることに意味があるのだろうか。各企業そして個人それぞれがが個々に出社、退社時間そして起床、就寝時間を調整すればよいことである。パソコンの時刻を調整したり等煩雑になることの方が大変である。
 - ◆サマータイム制度の導入には、温暖化防止対策や資源対策のみでなく、特にライフスタイルの見直しをこのチャンスにすべきである。
 - ◆過去に実施したサマータイム制度の反省を踏まえ、現状の社会におけるメリット・デメリットを検討し、PRを図り、ある程度のコンセンサスを得て実施すべきと考える。ただしこれらの作業を早急に行うことが必要。
 - ◆自然のリズムを活用したやり方で省エネルギーに役立つとすれば早急に取り組むべきと考える。二次的に他の効果、新しい雇用の創設やレジャーなどの幅を広げることにつながればさらに良いと考える。他国の状況を詳しく知りたい。
 - ◆制度として未知の部分が多いと思うが、日本人の労働、ライフスタイルを勘案して実行すれば意外に成功すると思う。
 - ◆早朝、涼しい時間の活用は省エネに十分効果がある。一時間といわずもっと差をつけて良いと思う。実施にはタイマーの設定変更がかなり大変だと思う。十分なPRとフォローが大切(特に高齢者)。
 - ◆導入に伴うデメリットに比べ、メリットの方がはるかに大きいと思われるので、早期実施に賛成したい。地球温暖化の軽減はもとより、ライフスタイルの変革による社会・経済上の効果が期待できそう。
 - ◆ヨーロッパに住む友人たちは、何の不都合もなく対応している。確かに南北に長い日本列島では地域によりサマータイムの有効性が違ってくると思うが、消費電力等を考えたら、絶対有効だと思う。

サマータイム制度に関するアンケート 結果報告書

発行／2005年5月

財団法人経済広報センター

国内広報部 広聴グループ（佐藤智徳）

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル 7階

TEL:03-3201-1412 FAX:03-3201-1404

E-mail:kochonet@kkc.or.jp